

弱いロボット



ゴミ箱ロボット

ICD-LAB (<https://www.icd.cs.tut.ac.jp/index.php/portfolio/sociable-trash-box-2019/>)

ここにゴミ箱の形をしたロボットがあります。ロボットは、ゴミを見つけて近づいてきます。でも、ゴミを拾うことができません。そのロボットはゴミの周りで、小さく体を動かしています。そして、少し困っているような弱い鳴き声を出しています。近くにいる人に、ごみがあることを教えているようです。近くにいた人が、ゴミを拾ってロボットの中に入れると、そのロボットは、おじぎをするように、少し体を倒しました。

また、別のロボットは、子どもたちに「ももたろう」の話をしています。「も

もたろう」は、日本の子どもならみんな知っている有名な昔話です。大きな桃から生まれた男の子の話です。このお話は、川に大きな桃が流れてくるところから始まります。



トーキング・ボーンズ

ICD-LAB (<https://www.icd.cs.tut.ac.jp/index.php/portfolio/talking-bones/>)

ロボットが話しはじめました。

「今からね、『ももたろう』をね、話すよ。大きな……えーっと、何が流れてきたんだっけ……？」

子どもたちがうれしそうにロボットに教えてあげます。

「桃！」

「桃だよー。」

ロボットが答えます。

「そうだ、桃だった。」

子どもたちが声をあげて笑います。みんな楽しそうです。

ゴミを拾えない「ゴミ箱ロボット」、お話を忘れてしまう「お話ロボット」。豊橋技術科学大学の岡田美智男さんの研究室では、このような「弱いロボット」を開発しています。

一般的なロボットは、どのくらいすごいことができるかを強調します。人間が寝ている間に、部屋をきれいに掃除したり、人間が何もしなくても車を運転してくれたりします。ロボットが「できること」はどんどん増えています。でも、「弱いロボット」は、あえて、「できないこと」を人間に見せます。それは、人間のやさしさを引き出すためです。

ロボットに全てを頼ってしまうと、人間は「もっと早く！」とか「もっと上手に！」と考えてしまいます。また、ロボットが何かに失敗したり、人間の思う通りに動かないと、イライラしたりします。「弱いロボット」を開発している岡田

さんは、「ロボットと人間が、お互いの強さと弱さを理解して協力することが大切だ」と考えています。相手の弱さを理解して助けてあげることや、相手の強さを理解して助けてもらうことは、人間と人間のコミュニケーションでも大切だと岡田さんは言っています。

(913 字)

(2021.5 Written by Junko SATO)

<参考資料>

- ・「ICD-LAB」ウェブサイト

<https://www.icd.cs.tut.ac.jp>

- ・YouTube 「“弱いロボット” が育む優しい心 【SDGs2030 年の世界へ】」

https://www.youtube.com/watch?v=2I5v4x_6Xzg

- ・「株式会社リクルート」ウェブサイト

https://www.recruit.co.jp/talks/meet_recruit/2020/03/weakrobots.html

- ・「豊橋技術科学大学」ウェブサイト

<https://talk.yumenavi.info/archives/1866?site=d>

(2021.5.31 ウェブサイト確認)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典: 「たどくのひろば」 (<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.